

阿蘇プロジェクト3年目の始動

本学と阿蘇市および阿蘇中央高校の三者が協力して取り組む「阿蘇プロジェクト」の第1回健康測定会を10日（火）、阿蘇市の阿蘇中央高校体育館で開催しました。プロジェクトは、同市民の健康寿命の延伸を目指す取り組みで、今年度で3年目。健康測定会は、年2回開催し、フレイル予防を目的とした「運動」「栄養」「社会参加」の3つのテーマに基づく検査を、高校生と大学生が主体となって行っています。



質問紙を用いた摂食嚥下機能検査を行う
言語聴覚学専攻の学生と阿蘇中央高の生
徒たち

住民の健康寿命延伸に向け共闘

学生、高校生を主体に第1回測定会

今年度の第1回健康測定会には、過去最多の46人の市民が参加しました。測定・検査は、本学リハビリテーション学科2年生51人と阿蘇中央高校2年生44人が担当。高校生と大学生による参加者への検査の説明はとても丁寧で、検査も正確でした。

今年度は「参加者の予防活動の継続」を掲げ準備をしてきました。高校生と大学生をモデルに運動方法を示したポスターを新たに作成、運動方法のレクチャーも健康測定会終了後に実施しました。

また、これまでのカレンダーを、「運動」「栄養」「社会参加」に関する活動記録を残すことができるように実施側の三者で協力をして改変しました。表紙は高校生、カレンダーは市職員が作成。

利用しやすくするために、見やすく、手にとりやすいものにし、さらには記録しやすくなるように工夫しています。運動方法のレクチャーでは、参加者全員が、ポスターとレクチャーのモデルでもある宮崎宣丞助教（理学療法学専攻）の模範運動を見ながら、一生懸命に取り組んでいました。

第2回の体力測定会は11月5日（水）に予定しています。それまでの約5カ月の間、電話を通じて高校生や大学生が参加者の予防活動を支援していきます。参加者がこれらの予防活動を継続して取り組んでくれることを期待しています。（リハビリテーション学科言語聴覚学専攻/健康・スポーツ教育研究センター 松原慶吾）



理学療法学専攻の学生と阿蘇中央高生によるバランステスト

開会式であいさつに立つ健康・スポーツ教育研究センターの荒木栄一センター長



閉会式で参加者とペアになり、健康状態の結果を確認する学生たち



写真右は、講演する澤野代表。同左は、熱心に澤野代表の話
を聴く学生たち

看護学科「母性看護学Ⅰ」

悲しみに寄り添う意味考える

幼子亡くした家族支援「みんなの和」澤野代表が講演

4日（水）に行われた看護学科の必須科目「母性看護学Ⅰ」で、流産や死産、新生児死などを経験した家族に寄り添う活動が続いている熊本グリーンピアサポートグループ「みんなの和」の澤野典子代表が講演しました。

澤野氏は冒頭、「みなさんは1時間22分あったら何をしますか？」と学生たちに問いかけ、この時間が自身の第一子である蒼空（そら）君が生きた時間だと明かしました。そして、不妊治療の末に妊娠したこと、妊娠がわかった時の心境、エコー検査で蒼空くんに障害があり長く生きられないかもしれないと診断された時の思いなどを伝えました。

生まれてまもなく息を引き取った蒼空くんが火葬されるまで一緒に過ごした時間を、澤野氏が時折涙で言葉を詰まらせながら話すと、受講していた学生たちの中には涙をぬぐったり、鼻をすすったりする姿が見られました。

出産という場面は必ずしも喜ばしいばかりではありません。時に、深い悲しみと向き合わなければならないこともあります。今回の澤野氏のお話は、将来、命と向き合う医療の現場で看護師として働く学生たちにとって、患者やその家族に寄り添うとはどういうことなのかを考える貴重な機会となりました。

（NL編集部）

医学検査学科2年「微生物検査学Ⅰ」

競って覚えよう！早押しクイズ

医学検査学科2年次の講義「微生物検査学Ⅰ」で、まもなく行われる前期試験に向けて、全員参加の早押しクイズが行われました。

「微生物検査学Ⅰ」は、病原体について理解し、病院での検査法を学びます。そのため、英語表記で書かれている菌の名前を覚え、その病原体がどんな特徴をもって人体に悪さをし、どのような検査で発見（医学的には“同定”といいます）できるのかを理解しておくなくてはなりません。

楽しみながら学生の理解を深められないか。授業担当の黒田誠教授が考えたのが、テレビ等でもおなじみの早押しクイズでした。10日（火）に実施した大会では、10人ずつの12チームに分かれ、一度に4チームが対戦しました。スライドには国試形式の問題と5つの選択肢が映し出され、学生たちは競い合うように解答ボタンを押していました。各

チーム前のめりで問題をのぞき込み、正解した時は拍手をしたり、間違ったときは悔しそうに顔をしかめたりと、真剣に問題と向き合う姿が見られました。（NL編集部）



早押しクイズに真剣に取り組む学生たち

患者データ蓄積し 客観的指標の構築を目指す

若手研究
2025-28年



リハビリテーション学科
理学療法専攻
本田 啓太 講師

脳卒中は要介護の主な原因の一つであり、約4割の脳卒中患者は1人で買い物に行けないほどの歩行障害を抱えています。

脳卒中患者の歩行障害の特徴は、麻痺側の下肢推進力の低下に伴って、「下肢ぶん回し」や「骨盤引き上げ」といった代償動作が生じることです。これらの代償動作はエネルギー効率が悪いので、患者の歩行時の疲れやすさの一因となっています。

現状の代償動作の評価方法は、主に観察による歩行分析であり、治療プログラムの決定には理学療法士などの主観的判

断が大きく関与しています。

そこで本研究では、マーカーレス動作解析システムを用いて脳卒中患者の歩行データを収集・蓄積し、運動麻痺の重症度や歩行速度に応じて患者を分類した上で、麻痺側の遊脚期に生じる代償動作の特徴を明らかにします。

さらに、それらの代償動作を定量的に評価可能な客観的指標の構築を目指します。この指標により、患者ごとの代償動作の特性を踏まえた治療方針の選択が可能となり、個別性の高いリハビリテーションの実現と歩行機能の最適な回復に寄与することが期待されます。

子ども支援へ西里小教諭と情報共有

ことばの相談室（リハビリテーション学科言語聴覚学専攻）のメンバーが3日（火）と10日（火）に西里小学校を訪問し、同小教諭らと情報交換を行いました。

相談室が展開する地域子ども支援の一環で、現在、西里小に通う子どもたちの学校生活・学習支援を協働で行っています。新年度が始まったこの時期に訪問することで、児童たちの普段の様子を確認するだけでなく、担任教諭の学級運営や学習面での気づき、困り感を具体的に話してもらうことができます。

相談室メンバーたちは、個別に同小学校を訪問。10日（火）は松尾朗講師が1・2年生、特別支援学級を見学し、児童たちの様子を近くで観察していました。その合間には、児童に向かって授業に取り組みやすい方法を教えたり、一緒に問題に向き合ったりしていました。

授業を見学した後は、担任教師から普段の子どもたちの様子を聞きながら、気になった点を共有。問題点を踏まえ、松尾講師は、席の配置や普段の対応、授業方法について提案していました。

（NL編集部）



ことばの相談室

児童と問題に向き合う松尾朗講師

P & P 報告会
お披露目講演会

3教員が登壇 … 研究内容、成果など発表

令和6年度学内研究費助成（P&P）報告会と、新任教員によるお披露目講演会が6日（金）、1303講義室Mで開催され、3人が自身の研究内容や成果などを発表しました。

P&P報告会では、医学検査学科の安楽健作教授が登壇。ヒト免疫不全ウイルス（HIV-1）の増殖過程における宿主細胞内での特定のリン脂質とウイルスが持つタンパク質との関係について、細胞実験を通じて得た知見を披露し、創薬への応用を展望しました。

引き続き、お披露目講演会では2人の特任教授が紹介されました。公衆衛生看護学専攻科の嶋野洋子特任教授は、「保健師活動の可視化を目指した取り組み」と題し、少子高齢化の進展に伴う地域での健康支援ニーズの高まりの中で、保健師が担う役割の重

要性を訴えました。アカデミックスキル支援センターの渡邊元生特任教授は、地方紙記者の経験を生かした広報紙（週刊NEWSLETTER）づくりの基本的な考え方を述べ、参加者にさらなる情報提供を呼び掛けました。（NL編集部）



お披露目講演会で講演する嶋野特任教授

九州インカレの壮行会が5日（木）、50周年記念館であり、出場するバスケットボール男子、バレーボール男子、サッカー男子の3競技、計33人の選手が紹介されました。

竹屋元裕学長が「悔いのないように実力を発揮してもらいたい」、井川陽仁学友会会長（リハビリテーション学科理学療法学専攻3年）が「これまでの努力がいい結果につながるよう応援しています」と、それぞれ激励。選手を代表してバスケットボール部の深澤眞斗さん（リハビリテーション学科言語聴覚学専攻2年）が力強く選手宣誓しました。

今年の九州インカレは、宮崎・大分地区で15競技、天草市で1競技が行われる予定です。

（NL編集部）

九州インカレでの健闘誓う



九州インカレに出場する選手を代表して宣誓する深澤さん



学食で入試・広報課職員から、施設の概要などを聴く飯野高校の生徒たち

■宮崎・飯野高校生が来学 宮崎県立飯野高校の2年生21人が5日（木）に来学しました。一行は入試・広報課職員から、学科の紹介や国家資格の説明のほか、スモールグループなど本学の特色と魅力を聞き、熱心にメモを取りながら聞いていました。その後はキャンパス見学へ。就職・実習支援課、図書館エリアを回り、最後に訪れた学食ではメニューを見て「うまそ～」と声を上げる様子も。最後の質疑応答では「学生にやさしいアパートはある？」「看護師になるには本を丸暗記すべき？」といった質問が飛び出し、担当職員は丁寧に答えていました。（NL編集部）

インフォメーション

週間行事予定（6月16日～6月23日）

6/16（月）	進路指導者説明会
6/18（水）	学校法人銀杏学園 理事会・評議員会
6/20（金）	新理事長お披露目式
6/21（土）	学友会 球技大会